



日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです!



民主 苦小牧号外
2026年
7.26
No.1150

絵本の力を借りて心にうるおいを

今日、私が注文していた著書が届きました。日本共産党参議院議員の大門みきしさんの新作『心をうるおす絵本50選～大人こそ絵本を読もう』です。大門さんは共産党きっての経済分野に長けている議員です。そして絵本好きでも知られており、SNSで絵本を紹介したり、「平和と絵本」のテーマで、全国で講演を行っています。

まだ読んではいませんが、「まえがき」を覗いてみると、こう書かれています。「心が渴いていませんか。忙し過ぎると心が渴きます。肩の力を少しぬいて、“絵本の力”も借りながら、心にうるおいをとりもどしましょう」と。だからこそ、「大人こそ読んでほしい」ということなのでしょうね。読むのがとても楽しみです。

先日、札幌の姉の家に行ってきました。93歳の叔母と私と同じ年の従妹も来て、久しぶりにゆっくり話すことができました。叔母とは毎年年賀状をやり取りしていましたが、従妹と会うのは20数年振りです。

1番元気だったのは叔母です。叔母夫婦が新婚旅行から帰ったら、新居にミヨノさん（私の祖母）が来ていて、2人の了解もなく一緒に住むことになっていたという、驚きの話しも聞きました。たくさんの昔話を教えてくれましたが、どの話しにも、祖母が出てきます。小野寺家は、祖母を中心にまわっていたのだと思います。私と姉が小さい時、「我が家の怖いものは、地震・雷・火事・おばば」と言っていたことを思い出します。

そして、姉が突然「私いま絵本作家を目指しているの」と言い、作品を披露しました。手書きのものをコピーした絵本ですが、素人とは思えない出来栄です。絵本の題名は『おばばのたんす』です。おばばのおまじないの言葉「だいじょうぶ、だいじょうぶ」が何度も主人公を助けます。絵本の「あとがき」では、「この絵本を開くたび、あなたに会えますように」と結ばれています。姉の絵本も、心にうるおいをとりもどすものでした。

大門さんは、「泣くことでストレスも一緒に体外に排出されるけど、男性は泣くのをがまんする人が多い」と言います。大門さん自身も人前で泣けるようになったのは、絵本の紹介を始めてからだそうです。きっと、心にうるおいをとりもどすと、うるおいが涙となるのでしょうか。とても大切なことだと思いました。